

第2回栗東市地方創生懇談会議事録

【日 時】令和6年8月23日（金）13:30 ～ 15:15

【場 所】栗東市危機管理センター3階 大研修室

【出席者】

委 員：新川委員（会長）、田中委員（会長代理）、福永委員、菅井委員

栗東市：市長、副市長、教育長、教育部長、環境経済部長、総務部長、市長公室長、社会福祉課長（健康福祉部長代理）、こども家庭局長、県設備技監、建設部長、上下水道事業所長、議会事務局長、危機管理局長、市民部長、情報政策課長、政策調整課長、広報課長、

事務局：地方創生企画課長、事務局担当2名、

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【会議の内容】

1. 開会
2. 市民憲章唱和
3. あいさつ
4. 委員紹介
5. 議事

（1）地方創生懇談会の公開にかかる取り扱いについて

～事務局より説明～

○質疑・意見

議長：栗東市附属機関等の会議の公開に関する規則に基づき、会議は原則公開ということですが、この趣旨に従い、本懇談会についても公開したいと思いますがいかがでしょうか。

各委員：異議なし

議長：それでは、全員一致で昨年度に引き続き、本懇談会は公開として取り扱わせていただきます。

（2）栗東市デジタル田園都市総合戦略（第3期栗東市総合戦略）について

～事務局より資料1及び資料2に基づき説明～

○質疑・意見

議長：ただいま、事務局より説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

各委員：パブリックコメントに対する市の考え方については、理解しますし、異論はありません。

議長：実行計画や進捗管理など、今後の進め方についてご意見、ご質問はございませんか。

委員：ゴールである人口の社会減抑制のために、どのような取組によって、どれだけの効

果があったのか、ロジカルに説明できるような計画であるべき。目標の立て方と評価指標の結びつきを明確にしていきたい。そうでないと、取組と結果の関係が感覚的になってしまいます。また、戦略の取組は、行政だけが行うものではないと思っていますので、行政以外のステークスホルダー（市民や市内企業等）も自らの役割が分かりやすくなるのではないのでしょうか。

事務局：戦略の43ページに重点プロジェクトの代表的な重要業績評価指標を挙げております。これを実現するために、具体的にどのような取組を行い、関連付けていくのか議論をしながら実行計画の策定に取り組んでまいります。

委員：企業の現状として、人材の確保が喫緊の課題です。そのためには、生活基盤の充実が不可欠であり、市内企業と市内高校との結びつきも大切だと考えています。市内の高校生が市内企業に就労することは、学生にとっても、企業にとってもメリットになりますし、市にとっても市民が住み続けていただける環境がつかれるのではないかと思います。

また、重点プロジェクトを達成するためには、外からの新しい人たちを積極的に迎える視点が重要ではないのでしょうか。私の周辺の例として、全国から就労のため移住してくる方がいますが、地域の状況をよく知らないまま価格だけで居住地を決め、住んだ後に不便さなどに気づく傾向があります。栗東市には市内に働く場所がある、一定の住宅環境・生活の利便性も確保できている、栗東市の住宅は比較的低価格であり、交通の利便性も良いということを知ってもらいたい。また、今、住んでおられる若い世代を外に出さないためには、子育て段階から高校卒業までの一貫した教育環境をアピールすることも必要ではないのでしょうか。

事務局：重点プロジェクトとして、住宅施策や子育て支援、生活基盤の充実を掲げておりますが、実際に住みたいと思えるような環境づくりというところでも大変重要な視点になりますので、考慮しながら検討いたします。

委員：やはり人口というのが一番重要になると思います。転出抑制のためにどうするのかは、実行計画を立ててきちんと実施していただきたい。

市の考え方として、持家、賃貸に関わらず長く住みたいと思っていただけるような取り組みが必要とのことですが、そのためには土地面積の広さなど、宅地開発等の規制緩和が必要だと考えます。戸建てが45坪だと最低でも4～5千万円かかってしまうし、栗東市には集合住宅にワンルームが無いという状況です。若い方や独身の方がこうした状況で住みたいと思ってもらえるのか、ニーズを掘り下げ、何をもって住みたいと思ってもらえるのか検討していただきたい。

また、今ある企業をどのように育成するかや、人手が足りない中、人材のマッチングなどについても検討していただきたい。地元企業を育成しながら人手を確保することが必要ではないのでしょうか。

事務局：既存の企業の育成や人材の誘導といったところでも大変重要ですし、住み続けていただくための選択肢を増やすという視点も大変重要であると思っております。具体的な取組までは現時点では申し上げられませんが、重要なお指摘として共有しながら実行計画の策定をしていければと考えます。

産業経済部長：本年度、栗東市商工振興ビジョンが計画期間の終期を迎えることから、次期計画を検討しているところですが、市内の小規模・中小事業者への支援は、引き続き行っていかなければ商工振興にはつながっていかないと考えております。また、かねてより人材確保が非常に厳しいというご意見を頂戴しており、こういった形をとれば効果的な手立てとなるのかというところを昨年度から議論を重ねているところです。先ほど、市内の高校とのつながりを、というご意見がありましたが、栗東市内の企業だけではなく、湖南エリアなど、もう少し範囲を広げてマッチングの機会などを設けていきたいと考えているところです。併せて、企業立地を促進することで関連企業も含め就業者の数は増加すると推測できます。また、これに加え、市民の利便性を向上させるための商業施設が必要ではないかのご意見も頂戴していることから、市内事業者に対し影響の度合い等について意見照会を行っているところです。

議長：パブリックコメントに対する市の考え方については、懇談会として異論はないということでご意見頂戴しました。従いまして、事務局の提案のとおり進めていただければと思います。

ただし、今後の戦略の進め方につきましては、様々なご意見を頂戴しました。子育て世代転出抑制を図ることは明確にしていますが、それをどのようなステップで進めるのか、具体的な取組をもって最終的な KGI につなぐのか、ストーリーを明確にする実行計画となるよう検討をお願いします。

また、働く人にとって魅力あるまちであることが、次世代を育むことにもつながることから、栗東の魅力、良さを感じてもらえるよう、しっかりと伝えていただきたい。

そして、人口を維持し、バランスのとれた人口構成を目指す5年間にするためには、住み方への選択肢が広がる居住条件が重要になってまいります。住居の形態、面積や立地、公共交通との関係、教育施設、医療福祉関係施設など、様々な選択が可能な栗東にしていかなければ、いろいろな層のオペレータになれません。そのような中、どこにフォーカスを当てるのかを検討したうえで、戦略及び実行計画が組み立てられるようご検討願います。

また、今回の計画はデジタル田園都市総合戦略です。データをもっと有機的に組み合わせる、というパブリックコメントのご意見もいただいておりますので、デジタルの視点も踏まえ取組を進めていただければと思います。

（３）第２期栗東市総合戦略の進行管理について

～事務局より資料３及び資料４に基づき説明～

議長：ただいま、事務局より説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。

委員：社会増減数や合計特殊出生率、事業所立地数などの KPI が、それぞれの取組によってどのように寄与したのか、結び付けが難しいと感じます。具体的な例として、企業の魅力発信冊子の掲載者数を年度の取組目標にしており、目標を上回る数の企業の掲載ができたわけですが、その結果、果たして人材確保にどれだけつながったのかというところまで繋がらないと評価が難しいというところです。

また、KPI によって短期的に効果が見られるものと長期の蓄積が必要なものが混在して

いますが、その使い分けも考慮する必要があるのではないかと感じます。観光消費額は比較的短期に効果が出ると思いますが、健康寿命の延伸などは、20 年単位で取り組んでいかないと難しいのではないかと思います。

また、有効性の評価のほかにパフォーマンス性の評価も必要ではないでしょうか。例えば、ある取り組みをした結果、利用者がそれほど伸びなかった場合、それがなぜなのかを分析し、問題を発見することや、実際の市民の声を反映することでパフォーマンスも向上するのではないのでしょうか。

グラフの見せ方について、スタートは0から示すべきだと思います。そうでないとバイアスがかかる恐れがありますし、データとしての正しさが損なわれる恐れがありますので、ご検討のほどお願いします。

事務局：それぞれの取組事業と達成状況が数値目標、KGI にどう関係しているのかが見えにくいというのは、事務局としても非常に頭を悩ませているところでございます。ご指摘のとおりでございますので、第3期総合戦略の実行計画策定の際には、KGI に対して何を指標にするのが一番効果的なのかというところ考慮し、関連性を意識しながら設定ができるよう考えてまいりたいと思っております。

委員：観光消費額が上がって目標を達成しているのは良いことですが、これはどのようなものを示しているのでしょうか。

環境経済部長：観光消費額は、観光ニーズ調査による数値になります。平成29年度の調査では、日帰り施設21か所、宿泊施設3か所でアンケート調査を実施し、観光入込客数は50万人程度でした。令和5年度の調査では、平成29年度に実施した施設に加え日帰り、宿泊ともに3施設を新たに加えて調査を実施しました。算出方法としては、宿泊施設も含め、アンケート調査を実施した施設での消費額の平均値を観光入込客数に乗じた値になります。観光入込客数自体が大幅に増加したため、消費額は増加していますが、平成29年度に調査した施設だけで比較しても、一人当たりの消費額は6割程度の増加が見られました。

委員：「まち」についての評価ですが、栗東への観光入込客数が増加しているというところから、市の魅力ある発信ができていないのではないか、と評価できます。

くりちゃんバスの運用（必要性）について、どのように考えておられるのか疑問を持っています。利用数がないと便数も増やせないと思いますが、利用が少ないから便数を減らすではなく、必要なところに便を当てるのがベストであると思います。回答は不要ですが、意見として提言します。

「ひと」についての評価ですが、おむつ助成やふたごみつご助成事業は素晴らしい事業だと感じます。小学校6年生の理解力もあがっていますので、地道に進め、魅力を高めていっていただきたい。

ところで、おむつなどの助成事業の情報発信はどのようにされているのでしょうか。対象者全員に情報は行きわたっているのでしょうか。利用者がどのように知ったかのアンケートなどの確認はしているのでしょうか。

子ども家庭局長：赤ちゃんおむつ事業については、出生届を提出された段階で総合窓口課と連携し、案内しています。ふたご・みつご事業については、学校を通じて保護者に案

内しています。そのほか、市 HP やアプリの活用などにより情報発信しています。

委員：それでは、栗東で出生した方は分かるけれど転入してきた方は分からない状況なの
でしょうか。転入者に対してもしっかり情報発信ができれば、栗東市の住みよさを親同
士の交流の場や SNS で発信してもらえるのではないのでしょうか。

子ども家庭局長：転入者についても案内できるよう努めていますが、すべての方に行きわ
たらせることは難しく、全国的な情報冊子など、周知機会があれば掲載している状況で
す。ふたご・みつご事業は毎年ではなく、出生時、小学校入学、中学校入学など節目の
タイミングになるため、対象時に知っていただけるよう働きかけています。

委員：「しごと」について、市内での購買割合が増加している要因は何でしょうか。

環境経済部長：市内での購買割合は、消費ニーズ調査による値になりますが、どのような
頻度や場所で購買されたかを調査した結果です。増加の要因として、プレミアム商品券
の発行や商工会の協力によるバル事業など、市内消費を上げる事業を実施したことによ
る効果が一定出ていると考えられます。

委員：全般的な話になりますが、KPI は未達成であっても、各取組の達成率は高く、これを
どう見ればよいのか、どう評価すべきかが難しいと感じます。

事務局：数値目標を目指すべき姿として位置づけているため、達成に向けてどうしていく
のか、というのが基本にはなりますが、各年度の市政方針も踏まえ、力点をおきながら
年度ごとの取組目標を掲げております。

委員：個々の主な取組状況を見るということになりますか。

事務局：はい。

委員：そうであれば、未達成に終わった取組については、達成に向け、具体的な対策を精
査し、事業の進め方に工夫をしていただきたい。ただし、目標達成ができていない要因
が取組内容そのものにあるのなら、取組内容を変える、手法を変えるといったことを考
えてもらいたい。令和 6 年度の実施計画案は令和 5 年度とほとんど変わっておらず、こ
のままでは未達成のままになるのではないのでしょうか。

事務局：個々の取組については、事業目的を持って行っており、未達成の要因もそれぞれ
であり、周知不足によるもの、補助制度に対するニーズが不足しているもの、目標設定
そのものが正しかったのか、など様々です。これらについては、事業進行の中で生じる
課題であるから、見直しをかけながら目標達成に向け取組を進めてまいります。

議長：ほかにご意見はございませんか。パフォーマンスが発揮できていない部分について、
なぜそれがうまく行かないのか、その情報や分析が今回の評価で十分にされていないの
ではないか。クレーム情報や市民の声も反省をするための手掛かりになるから、評価の
中で分析を試みられてはどうでしょうか。すべてを分析の対象にするのは相当の労力に
なることから、うまくいっていないものだけでも分析を進めていってはどうでしょうか。
また、主な取組と KPI の関係性、つながりが分かりにくい。貢献、寄与の度合いについ
て、難しいと思いますが、今後のためにも、トライしていただきたいと思います。

それでは、他にご意見、ご質問がないようでしたら、第 2 期栗東市総合戦略の進行管
理についての質疑応答は以上とさせていただきます。

なお、令和 5 年度の進行管理にかかる二次評価につきましては、ただいま各委員より

いただいた意見と、会議後に提出いただく「ご意見シート」を、私と事務局で取りまとめて二次評価とさせていただきます、今後の改善・見直しにつなげていくということで、私に預からせていただくということでご了承いただけますか。

各委員：異議なし

議長：ありがとうございます。それでは、令和5年度の実績にかかる二次評価については、一旦、お預かりさせていただき、令和6年度実施計画（案）については、この内容で計画を進めていただき、実際の事業の進め方については、本日のご意見も踏まえて、成果が上がるように努力をいただきますよう、お願いします。

6. その他

議長：その他事項につきまして、何かございますか。

事務局：本日は多くのご意見、重要なご指摘を賜り誠にありがとうございました。

それでは事務局よりその他として、栗東市デジタル田園都市総合戦略（第3期栗東市総合戦略）の公表に向けた今後の予定並びに、令和5年度の実績に対する二次評価の整理についてご説明申し上げます。

まず1点目の「栗東市デジタル田園都市総合戦略」の公表に向けた今後の予定についてでございますが、本日委員皆様よりいただきましたご意見も踏まえ、一部字句・文言等を事務局にて修正した「総合戦略（案）」に先ほどのパブリックコメントに対する回答を添え、9月に開催されます議会説明会に説明した後、市ホームページにてパブリックコメントと共に、成案化した総合戦略を掲載・公表してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

2点目の令和5年度の実績に対する二次評価の整理につきましては、先ほど会長からもございましたとおり、本日本会議中にいただきましたご意見、また本日出し切れなかったご意見、お気づきになった点等がございましたら、お手許に配布させていただいております「地方創生懇談会【ご意見シート】」にお名前、ご意見内容等をご記入いただき、FAXもしくはメールにて8月29日（木）までに事務局までご提出くださいますようお願い申し上げます。

このご意見シートのご意見も踏まえ会長と事務局においてご意見内容を整理のうえ、2次評価としてまとめてまいりたいと存じますので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます

議長：ありがとうございます。それでは、以上を持ちまして本日の地方創生懇談会に係る議事が終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

7. 閉会